

## 「東京湾の社会学」テキスト1

第3回：12月5日：担当講師：中島 満

# 東京湾と人のかかわりの歴史

—「海の道」をたどり江戸前の海と食文化を考える—

(1) 講師（なかじま・みつる）プロフィール：1949年埼玉県生まれ。1973年横浜国立大学社会学科卒。水産業界紙記者・編集者を経て、1995年まな出版企画設立、同社代表として現在に至る。フリーライターとして、海・魚（漁業史）と食（文化史）をジャンルに著作の発表を続ける。WEBサイト「MANA しんぶん」（<http://www.manabook.jp>）主宰。

〈主な著作〉「接点の海— 富津漁民群像」（共著『闘いの海から』現代技術評論社）1974年。「補償済み海面の不思議な性格— 千葉県富津町」「元祖漁業権—ハゼ釣りの共同漁業権 [京都府久美浜湾]」（『海の「守り人」論』まな出版企画）1996年。『若狭の漁師、四季の魚ばなし』（貝井春治郎著、中島聞き書き）草思社、1996年。「和歌山県すさみ・徳島県牟岐・東京湾お台場の事例紹介」（共著『ローカルルールの研究』まな出版企画所収）2006年。『「里海」って何だろう？— 沿海域の利用とローカルルールの活用—』（東京水産振興会、水産振興No.487）2008年。東京新聞木曜掲載コラム「味探検」1997年～2005年連載445回。「お氷さまと富士参り」（共著・NHK知るを楽しむ歴史に好奇心テキスト『江戸時代夏の日』）2006年。「東明慧日禅師の偉大な足跡」（『白雲庵物語』所収）2007年。

### (2) 本日本話しする内容

- ① 東京湾とはどういうところか（歴史・地理・社会：人のくらしと自然環境のかかわり）
- ② 東京湾と漁業
- ③ 東京湾を歩いてみよう— 食と歴史と文化を自分の足と眼と感性で実感してみよう
- ④ 江戸前の食べあるきにでかけてみました
- ⑤ あなたにとってのローカルな視点を大切にしていきましょう。

### (3) 東京湾略史

- 縄文時代前記から中期……奥東京湾に多くの貝塚が形成：クロダイ、マダイ、サバ、ボラ、アジフグ、スズキなどのほか、ハゼのような小型魚の魚骨も確認されるようになり、多様な魚種の採捕が行なわれていた。また、ハマグリからイボキサゴまで各種貝類が採取されていました。
- 縄文時代後期……このころ「大森貝塚」が形成。明治10年来日した米国の動物学者エドワード・モースにより発見される。
- 1180年（治承4）……源頼朝、伊豆で挙兵するも、平氏軍に敗戦、真鶴から海路

安房国に逃れる。安房上総の千葉氏北条氏らの協力を得て、頼朝に帰順した江戸氏の助けを受け隅田川を渡り、相模・鎌倉の地を拠点とすべく10月鎌倉にはいる。

- 1192年（建久3）……頼朝征夷大將軍となる。
- 1456年（康正2）……太田道灌江戸城の築城始める。
- 1590年（天正18）……豊臣秀吉小田原北条氏攻め、江戸城も攻略され開城。8月徳川家康、江戸城に入る。【漁】芝浦・金杉浦漁師、家康の渡河を助け、苗字拝領し漁業免許を頂戴、魚初穂を献上。
- 1600年（慶長5）……関が原の戦い、佃村漁師共御召、御菜御魚献上、朱印頂戴したとされている。
- 1603年（慶長8）……家康征夷大將軍となる。
- 1604年（慶長9）……日本橋を基点とする諸街道（5街道など）整備、一里塚をおく。
- 1613年（慶長18）……佃島漁民に対し、江戸近辺の海川において網引き御免の証文が発行される。このころ、佃漁民は、江戸安藤対馬守屋敷近辺小網町町屋敷地を拝領、石川四郎右衛門屋敷などに居住。
- 1614年（慶長19）……木更津の水主が、大坂冬の陣の功勞により内湾舟運特権を得る。
- 1630年（寛永7）……將軍家光江戸前で幕府水軍閱兵。深川漁師町漁民が、この年から江戸城本丸に一月御菜御肴上納はじめる。佃漁民、お成りの節御役船渡し船などの諸役を勤める。芝浦金杉漁民一月魚初穂上納。
- 1642年（寛永19）……佃漁民、鉄砲洲干潟百間四方拝領。2年後普請のすえこの地が佃島（嶋）と名づけ、無税地となる。
- 1654年（承応3）……玉川上水が完成する。
- 1686年（貞享2）……生類憐みの令。
- 1703年（元禄16）……佃島漁師のとる白魚が名物となる。
- 1711年（正徳元）……芝浦・金杉浦が江戸前総元締めとなる。
- 1717年（享保2）……大岡越前守忠相、町奉行となる。
- 1735年（享保20）……御菜八ヶ浦組合が成立。
- 1742年（寛保2）……幕府「漁撈海川境論」制定。
- 1753年（宝暦3）……武蔵国糶谷村と大森村との間で海苔ヒビ場紛争がおき、示談となる。宝暦5年同問題再燃、翌七年採決され決着。
- 1798年（寛政10）……品川洲崎に鯨が上がる。將軍家斉が浜御殿でこれを見物。
- 1816年（文化13）……江戸内湾漁業組合（湾内漁業者代表）成立、江戸内湾漁獵大目三十八職の覚書が交わされる。神奈川浦集会。
- 1821年（文政4）……近江屋甚兵衛、上総国人見村（現在の君津市）で海苔（アサクサノリ）の養殖に着手。
- 1834年（天保5）……安藤広重「東海道五十三次」刊行。

- 1837年（天保7）……斎藤月岑他編「江戸名所図会」刊行完了。
- 1838年（天保9）……同編「東都歳時記」刊行。
- 1839年（天保11）……遠山左衛門尉景元、町奉行となる。
- 1847年（弘化4）……大森の三浦屋田中藤左衛門が焼き海苔を始める。日本橋乾海苔茶仲間が結成。
- 1853年（嘉永6）……アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー、浦賀来航。お台場築造はじまる。翌1854年、日米和親条約締結。1858年日米修好通商条約締結。
- 1860年（万延元）……井伊大老暗殺、桜田門外の変。
- 1867年（慶応3）……徳川慶喜大政奉還。1868年五箇条御誓文。王政復古の大号令。同年官軍江戸城入城。
- 1868年（慶応4／明治元）……江戸を東京に改称。東京府開庁。明治改元。10月天皇東京に到着。江戸城は皇居となる。
- 1872年（明治5）……新橋―横浜間鉄道開通。
- 1881年（明治14）……船橋九日二十六町歩を埋め立て塩業開発始まる。この年、「内湾組合契約書」が取り交わされ、東京内湾組合が再興される。12月11日内湾浦々三十八職の漁法が明文化される。この年、富津岬に保塁建設始まる。第一海堡建設、明治23年完成。
- 1883年（明治16）……千葉町で水産集談会開催。
- 1901年（明治34）……漁業法公布（いわゆる「明治漁業法」：旧漁業法）
- 1910年（明治43）……漁業法全文改正（いわゆる「明治漁業法」：改正漁業法）
- 1920年（大正9）……浅野総一郎（東京湾埋立(株)・京浜運河(株)：浅野セメント創始者）京浜工業地帯構想が具体的進展へ（実質1913年大正年以降順次埋立事業が進展中）。
- 1963年（大正12）……関東大震災で消失した日本橋魚市場に変わり、築地魚河岸が建設、12月開場式が挙行。
- 1926年（昭和元）……昭和改元。
- 1931年（昭和7）……羽田空港完成。
- 1941年（昭和16）……館山港沖合い湾内で鯨300頭余捕獲。／12月太平洋戦争はじまる。
- 1945年（昭和20）……ポツダム宣言受諾、無条件降伏：敗戦。
- 1948年（昭和23）……水産業協同組合法制定。
- 1949年（昭和24）……漁業法制定（いわゆる「新漁業法」）：漁業制度改革
- 1957年（昭和32）……千葉県内湾漁業権放棄（すでに54年曾我が放棄済み）この年から1977年（昭和52年）まで20年間に行なわれる。合計42漁協の組合のうち37漁協が放棄実行し、1万4631人（一部・全面重複含めのべ2万3551人）の組合員に合計1157億円の補償金額が支払われた。概略喪失漁場2万8162ha。（その実質最後の大型埋立が富津地区。1968年から70年にか

け順次各組合が協定書調印)

- 1958年(昭和33)……浦安一本州製紙事件
- 1960年(昭和35)……所得倍增計画
- 1962年(昭和37)……◎東京都内湾全面漁業補償締結(内湾17漁協4165名。総額330億円。)全国総合開発計画
- 1965年(昭和40)……◎横浜「根岸湾ハ地区埋立事業」市と漁業者との交渉妥結
- 1966年(昭和41)……我妻栄鑑定書(大阪府泉大津漁協の補償金配分をめぐる訴訟事件で原告側から提出された漁業権の権利主体を総有説に基づき論述した鑑定を行う。判決は77・6)
- 1967年(昭和42)……公害対策基本法
- 1968年(昭和43)……◎横浜市「金沢地先埋立計画」を議会可決。／新潟で開かれた日本弁護士会による「公害シンポジウム」で環境権概念が初めて打ち出される。
- 1969年(昭和44)……米「天然資源保全及び環境保護法」草案(環境法概念の法案化)／新全総
- 1970年(昭和45)……国際社会科学評議会他「公害国際会議」で環境権を基本的人権として位置付ける旨の要請をおこなう。／大阪弁護士会が環境権を提唱／公害対策基本法改正により環境基準等条項盛り込まれる。
- 1971年(昭和46)……◎横浜市金沢地先埋立協定書に市と漁業者側が調印／○全国自然保護連合第1回総会(全国自然保護のつどい・神奈川県)○千葉の干潟を守る会「東京湾を死の海にするな」のスローガンのもと活動を始める。／ラムサール条約が採択(イラン・ラムサール)一湿地保全における「賢明な利用(Wiseuse=ワイズ・ユース)」の基本原則が以後「環境政策」の方向性として定着していく。／◎風成判決(大分地裁)
- 1972年(昭和47)……国連人間環境会議(ストックホルム)において「環境権」を人間の当然の権利としてアピール
- 1973年(昭和48)……豊前火力に反対して火力発電所建設差し止め請求訴訟。松下竜一氏らによる「豊前環境権裁判」提訴／「公害を告発する高砂市民の会」の集会において高崎裕士氏らから「入浜権」の概念誕生する。◎瀬戸内海漁民会議(横井安友)結成。漁民と市民との連帯を強く呼びかける。
- 1974年(昭和49)……全漁連等主催「漁業危機突破全国漁民大会」(東京)開催／三菱石油水島貯油タンクよりC重油流出事故
- 1975年(昭和50)……入浜権宣言発す(三菱事故抗議・海を活かしコンビナートを拒否する東京集会)／○第1回全国干潟シンポジウム(愛知県・汐川宣言)一汐川干潟を守る会編「干潟からの声—全国干潟シンポジウム1975汐川」／○沖縄国際海洋博覧会
- 1976年(昭和51)第2回全国干潟シンポジウム(千葉県)一千葉の干潟を守る会編「干潟からの声—全国干潟シンポジウム1976千葉」で、東京湾保全基本

法構想が提起される。／〇～77年にかけてソ連・米国等が200カイリ漁業専管水域実施、世界は200カイリ体制に。

- 1981年（昭和56）……◎横浜市金沢地先埋立実施と漁業補償協定に伴い柴漁業協同組合解散、あらたに横浜市漁業協同組合（柴支所）設立。／第1回全国豊かな海づくり大会、以後毎年開催。
- 1984年（昭和59）東京湾会議が発足／第5回日本環境会議（川崎市）で東京湾問題を討議。／大野一敏「サンフランシスコ湾計画」日本語版を発表
- 1985年（昭和60）……東京湾会議主催「第1回東京湾シンポジウム」。
- 1986年（昭和61）……一東京湾会議主催「第2回東京湾シンポジウム」で「東京湾の環境と未来」討議。○東京湾フォーラム「東京湾シンポジウム」開催し「東京湾の再生と保全を求めて」を討議。○東京弁護士会「東京湾保全基本法」を提言。
- 1987年（昭和62）……横浜市漁業協同組合（柴支所）直営、魚の直売所開設
- 1989年（昭和64/平成元）……○第1回国際湿地シンポジウム（名古屋）○内山節編「《森林社会学》宣言—森と社会の共生を求めて」（有斐閣）刊。／◎最高裁第1小法廷が「現在の共同漁業権は古来の入会漁業権と全く性質が変わっており、漁民の総有ではなく法人としての漁業協同組合に帰属する。補償金配分も漁民全員一致ではなく、漁協の総会決議で決めるべきだ」とする判決をだす。／昭和天皇崩御元号平成に。／中国天安門事件。／ベルリンの壁崩壊。
- 1990年（h2）……○バブル崩壊
- 1993年（h5）……ラムサール条約第5回締約国会議初めて日本で開かれる（釧路市）／◎静岡県沼津市の大瀬崎ダイビングスポットの設置と潜水利用料を地元漁協が徴収することが合法か否かの「大瀬崎D昭和裁判」はじまる。／◎環境基本法制定（公害対策基本法廃止）、環境アセスメントが始めて盛り込まれる。
- 1994（h6）……○畠山重篤著「森は海の恋人」（北斗出版）刊。以降、漁民による植樹活動から市民が参加する全国的な森・川・海の連環を考えるための植樹運動広がる。／○国連海洋法条約発効○地球温暖化防止条約発効。／○関西国際空港開港。
- 1995（h7）……大瀬崎D昭和裁判の静岡地裁沼津支部判決。潜水利用料は「漁業権侵害の受忍料」とも考えられ「一村専用漁場の慣習」が法律的根拠にもなりうるとして被告漁協側勝訴判例となる（原告控訴）。／阪神淡路大震災。
- 1996（h8）……○三番瀬を守る署名ネットワークの活動開始／大瀬崎D昭和裁判の東京高裁判決。潜水利用料は現行法規解釈では「不当利得」に当たるとし原告勝訴（被告漁協控訴）。／国民の祝日「海の日」制定。
- 1997（h9）……諫早湾干拓潮受堤防閉め切り（いわゆるギロチン）を農水省断行。／◎ロシア船籍タンカー・ナホトカ号が日本海壱岐沖合で座礁により重油流出事故発生。未曾有の漁業被害だったが、漂着した重油回収海浜の清掃のために全国から市民ボランティアが集まり、漁村住民と市民との共同作業の交流が力

を發揮。／東京湾でタンカー・グレース号原油流出事故発生。／河川法改正「関係住民の意見を反映させるための必要な措置を講じ」る規定が盛り込まれる。  
／◎地球温暖化防止京都会議において京都議定書作成。

- 1998 (h 10) ……三番瀬を守る署名ネットワークが、三番瀬埋立て計画の撤回を求める署名 12 万人を千葉県知事に提出。
- 2000 (h 12) …大瀬崎D昭和裁判最高裁は、高裁の潜水利用料は不当利得とする解釈に誤りがあるとし、金額・徴収等の合意があったかが審理不尽のため高裁差し戻し判決で。12 月大瀬崎D昭和裁判東京高裁差し戻し審では、潜水利用料の徴収に合意があったと認定し、被告漁協側勝訴（原告控訴せず 2001 年 2 月確定）。
- 2001 (h 13) ……「宝の海を返せ！水門を開放しろ！」諫早湾干拓の潮受堤防に向けて関係漁民が漁船による海上デモ実施。6 月「瀬死の海からの証言—有明海・諫早湾～不知火海・球磨川の漁民たち」緊急シンポジウム開催（東京）／◎三番瀬計画撤回を公約して千葉県堂本知事当選。／○有明海ノリ不作問題深刻化。／◎千葉県木更津を拠点に漁業者等が「里海づくり」をめざし東京湾で絶滅したアサクサノリ種のノリ養殖に挑戦を始める（→04 年 11 月ノリ製品生産化に成功）。／水産基本法公布・施行。同時に漁業法等改正が行われる（水産基本法等 4 法の制定改正）。
- 2003 (h 15) ……国土交通省・海上保安庁関係部署を事務局とする「東京湾再生推進会議」が『東京湾再生のための行動計画』について」をまとめ公表
- 2004 (h 16) ……○千葉県三番瀬再生計画検討委員会「三番瀬再生計画」策定公表。  
／◎千葉県木更津の漁業者が中心になって「NPO 法人盤州里海の会」設立。東京湾で絶滅したアサクサノリやハマグリなどを再生させる行動を起こした。盤洲干潟や小櫃川河口干潟の自然を生かした漁業者と市民とが漁業の暮らしをとおして交流と行動をおこしていく森川里海のめぐりの里づくり運動を始める。
- 2006 (h 18) ……柳哲雄「里海論」刊行（「里海」とは、人手が加わることによって生産性と生物多様性が高くなった海を意味し、これからの日本の目指すべき「人と海との理想的関係」を提言）
- 2007 (h 19) ……里海（里浜）、里川の考え方が広まる。行政による予算措置が講じられる施策にも取り入れられるようになりほぼ認知／「海洋基本法」制定／「高木委員会」最終報告「魚食をまもる水産業の戦略的な抜本改革を急げ」水産業改革高木委員会（日本経済調査協議会）
- 2008 (h 20) ……「里としての海を考えるシンポジウム」全漁連（水産庁助成）

資料A：東京湾漁場図：明治41年泉水宗助発行：地名参照用

